

学校教育目標	◎精いっぱい学習する子 ○人のためにつくす子 ○すすんで体をきたえる子	【目指す学校像】	・子供たちにとって学びがよいある学校 ・教職員にとって働きがよいある学校
		【目指す児童・生徒像】	・心身共に健康な児童 ・創造性に富んだ児童 ・人間として調和のとれた児童
		【目指す教師像】	・人権感覚が豊かな教師 ・創造性に富んだ教師 ・チームを意識した協調性のある教師 ・絶えず研究と修養に励む教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	取組の進捗状況	今後の方向性		
確かな学力	「分かること・できることが楽しい」 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせ、主体的に学びに向かう力を育成する。	全ての児童への基礎・基本の確実な定着を目指し、分かりやすい指導を工夫・改善する。	全ての児童に基礎・基本が定着するよう、学習環境を整備し、個に応じた指導方法を工夫・改善する。	4 教室の学習環境を整備した…90%以上の教員 3 教室の学習環境を整備した…80%以上の教員 2 教室の学習環境を整備した…70%以上の教員 1 教室の学習環境を整備した…70%未満の教員	4	4 授業が分かりやすい…95%以上の児童 3 授業が分かりやすい…90%以上の児童 2 授業が分かりやすい…80%以上の児童 1 授業が分かりやすい…80%未満の児童	4	教室前方に余計なものを置かないなど学習に集中できる環境を整備している。机の横には最低限のもの(タブレットや給食袋など)しかかけさせないようにしている。課題、まとめ、振り返りを明確にした授業を行っている。	大切なことなどが把握できるように学習の流れや基本となる言葉や話型をしていく。		
		デジタル教科書、タブレット端末等を活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進する。	「ICTスキルステップ表」を基にし、タブレット端末をはじめとしたICT機器を学習に有効的に活用する。	4 ICT機器を学習に活用した…90%以上の教員 3 ICT機器を学習に活用した…80%以上の教員 2 ICT機器を学習に活用した…70%以上の教員 1 ICT機器を学習に活用した…70%未満の教員		4 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…90%以上の児童 3 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…80%以上の児童 2 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…70%以上の児童 1 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…70%未満の児童		4	意見や結果を共有するために、スクリーンショットの発表ノートを使った。生活科のあさがおの観察で各段階で写真を撮らせている。書画カメラを使って、指導内容を共有できるようにしている。タブレットを活用した学習指導が日常となっている。	「ICTを使うことが特別でないこと」「自分で選択してICTを使う」ことを念頭に置き指導していく。	
		主体的・対話的で深い学びを実現する授業を工夫し、自らすすんで学習に取り組む児童を育成する。	授業において、児童相互の学び合い活動を取り入れ、自らすすんで学習に取り組ませる授業を実践する。	4 児童相互の学び合い活動を実施…80%以上の教員 3 児童相互の学び合い活動を実施…70%以上の教員 2 児童相互の学び合い活動を実施…60%以上の教員 1 児童相互の学び合い活動を実施…60%未満の教員		4		4 話し合い時間や意見などを発表する時間を選んで参加している…90%以上の児童 3 話し合い時間や意見などを発表する時間を選んで参加している…80%以上の児童 2 話し合い時間や意見などを発表する時間を選んで参加している…70%以上の児童 1 話し合い時間や意見などを発表する時間を選んで参加している…70%未満の児童	3	考えの交流や答えを導き出すための話し合い、考えを比べて自分の思考を整理する時間を取っている。ペアワークやグループワークを授業の中に取り入れるようにしている。	自身の考えと他者の考えを比較して、より良い考えを示せるようにしていく。
		道徳授業の質の向上を図り、自分の考え方に気づき、互いに認め合う児童を育成する。	道徳授業を通して、一人一人の良さを認め、互いに必要とされる実感がもてる学級経営を実践する。	4 お互いを認め合う道徳授業の実施…95%以上の教員 3 お互いを認め合う道徳授業の実施…90%以上の教員 2 お互いを認め合う道徳授業の実施…80%以上の教員 1 お互いを認め合う道徳授業の実施…80%未満の教員		3		4 思いやりの心をもって行動している…95%以上の児童 3 思いやりの心をもって行動している…90%以上の児童 2 思いやりの心をもって行動している…80%以上の児童 1 思いやりの心をもって行動している…80%未満の児童	3	他者の考えと比較しながら、様々な考え方に触れさせている。考えの交流、それぞれの回答を尊重するような投げかけをしている。児童の考えを否定せずに思ったことを言えることができるようにしている。	児童が全員、自分から考えを積極的に話したり、表現したいと思えるような授業展開をしたい。
豊かな心	「みんなと仲良くできて楽しい」 道徳教育の充実を図り、人権尊重の精神を醸成し、共に認め高め合い、学校は楽しいと実感できる児童の育成を目指す。	いじめの未然防止と早期対応を推進し、問題行動に素早く気づき対応し、安心して通える学校にする。	いじめ防止対策冊子の活用し、学校いじめ対策基本方針に基づいて児童への指導を行う。	4 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…90%以上の教員 3 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…80%以上の教員 2 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…70%以上の教員 1 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…70%未満の教員	4	4 学校で安心して生活できている…95%以上の児童 3 学校で安心して生活できている…90%以上の児童 2 学校で安心して生活できている…80%以上の児童 1 学校で安心して生活できている…80%未満の児童	2	道徳の授業などを通していじめは絶対に許されないことを伝えていく。児童理解に努め、トラブルが合ったときは早期発見、早期解決に努めている。	相手の気持ちや考えを考えた行動や言葉遣いを常に意識させ、いじめの芽をつぶしていく。小さなことでも担任に報告し、連携を取っていく。		
		人や自然、文化との関わりを通して、本物と出会い自尊感情や自己有用感を高める。	縦割り班活動の充実を図り、児童同士が実体験を伴う交流を行う。	4 異学年交流活動を含めた指導の実施…全教員 3 異学年交流活動を含めた指導の実施…95%以上の教員 2 異学年交流活動を含めた指導の実施…90%以上の教員 1 異学年交流活動を含めた指導の実施…90%未満の教員		4		4 学校や学級の仲間と接している…95%以上の児童 3 学校や学級の仲間と接している…90%以上の児童 2 学校や学級の仲間と接している…80%以上の児童 1 学校や学級の仲間と接している…80%未満の児童	3	縦割り班活動や委員会・クラブ活動で異学年で活動できるようグループを作るときに工夫をしている。体育の研究授業や運動会、行事等の報告会などで交流している。	中、昼休み、放課後に、自然と交流遊びをしている姿が見えてきているので、促進させる。
		健康教育の充実を図るためにグッドモーニング60分の取組を年間を通して行う。	健康教育の充実を図るためにグッドモーニング60分の取組を年間を通して行う。	4 健康教育活動の実施…90%以上の教員 3 健康教育活動の実施…80%以上の教員 2 健康教育活動の実施…70%以上の教員 1 健康教育活動の実施…70%未満の教員		4		4 安全・安心や健康についての知識を活かしている…95%以上の児童 3 安全・安心や健康についての知識を活かしている…90%以上の児童 2 安全・安心や健康についての知識を活かしている…80%以上の児童 1 安全・安心や健康についての知識を活かしている…80%未満の児童	3	グッドモーニング60分に取り組み、児童の一日の生活の実態を把握させるとともに、健康の保持増進のための方法を示している。	実施率等を把握し、実態に合わせて指導する。3年生の保健学習で指導予定。睡眠不足や排泄の大切さについて家庭と連携する。
		一人一人が体力向上を意識できる、体育学習の充実を図る。	コーディネーショントレーニングを含む体力向上へ向けて実践を体育の授業で行う。	4 体力向上に関する指導を20回以上実施…90%以上の教員 3 体力向上に関する指導を20回以上実施…80%以上の教員 2 体力向上に関する指導を20回以上実施…70%以上の教員 1 体力向上に関する指導を20回以上実施…70%未満の教員		1		4 体を動かしたり遊んだりしている…95%以上の児童 3 体を動かしたり遊んだりしている…90%以上の児童 2 体を動かしたり遊んだりしている…80%以上の児童 1 体を動かしたり遊んだりしている…80%未満の児童	2	体力向上に旬間でコーディネーショントレーニングを指導した。「体づくり運動」でラディアンや「く」の字「S」字運動を取り入れ、神経系に刺激を入れて、様々な運動に適應できるようにしている。期間を決めて集中的に取り組んでいる。	体力向上旬間の確実な実施。効果的な取組方を検討する。
健やかな体	「心も体も弾んで楽しい」 からが計画的に体力向上を推進し、心身ともに健康な児童の育成を目指す。	自らの健康を適切に管理するとともに改善能力を培う。	元気アップガイドブックの活用した取組を年間を通して行う。	4 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…90%以上の教員 3 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…80%以上の教員 2 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…70%以上の教員 1 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…70%未満の教員	1	4 食事や栄養についての知識を生かしている…95%以上の児童 3 食事や栄養についての知識を生かしている…90%以上の児童 2 食事や栄養についての知識を生かしている…80%以上の児童 1 食事や栄養についての知識を生かしている…80%未満の児童	1	体力テスト期間に活用し、児童にチェックさせた。定期的に活用し睡眠時間や食事について学習し生活習慣の改善をしている。ガイドブックを振り返る時間がなかなかできていない。	学年で話し合いながら計画を立てるなど、校内で活用法を考え、全校での取り組みを考えていく。		
		自己有用感を感じる機会を通して、自分には得意なところがあると感じる児童を育成する。	児童が自分自身を見つめ、自分の得意なところを見付ける指導を行う。	4 自分の得意なところは何かについて考える…95%以上の児童 3 自分の得意なところは何かについて考える…90%以上の児童 2 自分の得意なところは何かについて考える…80%以上の児童 1 自分の得意なところは何かについて考える…80%未満の児童		4		4 自分の得意なことは何かについて考える…95%以上の児童 3 自分の得意なことは何かについて考える…90%以上の児童 2 自分の得意なことは何かについて考える…80%以上の児童 1 自分の得意なことは何かについて考える…80%未満の児童	2	自分の目標を考えさせ、自分が頑張ったことを意識させている。係活動で好きなことや得意なことを生かす場面をつくっている。道徳の指導で、個性の尊重をあつかわせに行っている。	児童一人一人の得意なところの価値付けを行っていく。計画的に係活動ができるように活動時間を工夫する。
		自己有用感を感じる機会を通して、自分には良いところがあると感じるところを子供を育成するとともに、キャリア教育を推進し、社会貢献力の育成を図る。	自身の成長や変容に気づくことができるようにキャリア・パスポートの活用を図る。	4 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…90%以上の教員 3 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…80%以上の教員 2 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…70%以上の教員 1 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…70%未満の教員		4		4 自分の将来について考えることがある…95%以上の児童 3 自分の将来について考えることがある…90%以上の児童 2 自分の将来について考えることがある…80%以上の児童 1 自分の将来について考えることがある…80%未満の児童	2	学期ごとにめあてを立て、それを振り返っている。また保護者の方にも確認してもらっている。キャリア・パスポートで自身の日常を振り返らせ、わずかな成長でも自分の力であることを認めさせている。	2・3学期も継続して取り組み、自分の成長に気付かせていく。
		社会への適応性、社会貢献力の育成を図る。	学級や学年、家庭や社会の中での生活と、授業を関連させ、適応性と社会貢献力を養う指導を行う。	4 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…90%以上の教員 3 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…80%以上の教員 2 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…70%以上の教員 1 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…70%未満の教員		4		4 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…95%以上の児童 3 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…90%以上の児童 2 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…80%以上の児童 1 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…80%未満の児童	2	学級活動として学期ごとに目標を設定して、取り組ませ、自分自身の生活について振り返りをしながら生活の改善に取り組ませている。	目標に向かって取り組むことができるよう指導を継続していく。